



市長コラム

～未来への架け橋～

Vol.4

市民の皆さま、こんにちは。

冬の厳しさもようやく終わりを告げ、陽光柔らかな季節を迎えました。

昨年度に引き続き、コロナ禍での新年度のスタートとなりますが、人生の新たな門出を迎える皆さまには、希望と目標に向かって、しっかりと歩みを進めていただきますようご期待申し上げます。

さて、このほど、市では人事異動内示をしました。今回の人事は、これまでとは異なったコンセプトで行いました。私自身、「組織づくりは人づくり」であるとの理念のもと、最も重要なことは、戦略的な「採用」と強い意志による「人事」であり、それいかんによって組織は大きく異なってくるものと考えています。

その思いから、市議会3月定例会での施政方針でも申し述べたように、前例や既成概念にとらわれず、「今、何が必要か」「何を変えるべきか」を念頭に、現状に沿った実効性の高い組織づくり、人員配置としました。

コロナ禍でこれまでの常識が覆され、さまざまな困難に直面し、一方では、多くのことに気づき、学ぶ機会でもありました。より良い市役所、市民に信頼される市職員を目指し、それを実現するため、段階的な人事および組織改革を行うことが必要です。

組織機構については、業務の繁閑の状況を見極め、組織そのものを型にとらわれず、課の統廃合など改編を行ったほか、近年、さまざまな分野でデジタル化が急速に進み、国においては「デジタル庁」の創設を掲げていますが、市でも行政事務の効率化と皆さまの利便性向上を推進するため「デジタル行政推進課」を新設し、また、金木および市浦地区の地域

振興と住民サービスの向上のため、両総合支所の人員や予算を拡充し、機能の充実・強化を図りました。

また、最近、SBP（ソーシャル・ビジネス・プロジェクト）など、当市の高校生のさまざまな取り組みに触れる機会が多く、こうした若い世代のアイデア、表現力や行動力に感銘を受け、頼もしく感じています。今後は、地域の未来を担う若者の地元定着のため、そうした学生たちのアイデアや専門性を生かす採用枠を設けるなど採用改革を進めるほか、行政が地域のけん引役となるため、採用間もない人材を対象に新たな育成プランに基づき、行政の基本である「住民サービス」のプロとして、次代を担う若手職員をしっかりと育成していきます。

今後も、市民の皆さまに、市役所が良くなったと思っただけのような、柔軟かつ大胆にさまざまな行政課題に取り組んでいきたいと思っていますので、忌憚（きたん）のないご意見をお聞かせください。

なお、令和3年度の採用試験についてのお知らせですが、第1次試験（大卒程度区分）が従来の試験種目（教養・専門）から、SPI3（総合適性検査）方式に変更し、例年より早い4月1日から申込受付を開始します。『情熱があり、課題にチャレンジできる』職員を求めていますので、たくさんのお申し込みをお待ちしています。

市では、昨今の状況を受け、生活が苦しくなった世帯、特に子育て家庭を少しでも経済的に支援するため、この4月より、非課税世帯等を対象に「生活応援給付金」の支給を行います。詳しくは市ホームページに掲載しますので、ご確認くださいようお願いします。



市役所採用1～3年目までの
『若手職員研修会』の様子



五所川原商業高校と五所川原第一高校による
『土間るしえ2020』の様子